

【小学部】

1 実践内容

前年度の授業を受けて年間指導計画を見直し、教科の視点を入れた「各教科等を合わせた指導」についての授業実践を行った。授業改善シートの活用や、単元の前後で授業内容や児童の様子について話し合う機会を設けながら、PDCA サイクルを回して取り組んだ。

〈低学団〉

「遊びの指導（自由遊び・課題遊び）」について、教科の視点の取り入れ方や、客観的な主体性の評価方法などについて検討し、授業改善を図ってきた。「自由遊び」では、児童がより自由で主体的に遊ぶ姿を意識し、各教科とのつながりを持たせるため、教科の視点を取り入れた遊具を作成した。一方で「課題遊び」では、ルールや教具を工夫し、より教科の視点を意識した目標を設定して取り組んだ。また、昨年度に引き続き、授業改善シートを二度回覧することに加え、「主体的に活動する姿」のキーワードをもとに、3観点（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」）で児童の様子を振り返ることで、客観的な評価に取り組んだ。

教科の視点を取り入れた遊具の例

遊具名	教科名	内容
段ボールすべり台	国語	遊具の名前に触れること。
	算数	順番を数える、カウントダウンするなどして数に触れること。
	道徳	遊び方のきまりや順番を守ること。
	体育	体を動かすことの楽しさや心地よさを感じる。

【開かれた授業研究会】遊びの指導 単元名「段ボール遊び」



〈授業研究会より〉

授業改善シートによって PDCA サイクルを回し、様々な実態の児童が楽しめる遊具や遊び方に改善していくことができた。そのため、好きな遊びを見つけ、自分から向かう児童の姿が多くみられた。さらに主体的な児童の姿を引き出すためには、児童自らが素材を生かし、遊びを工夫できる場の設定や教具を検討していくことが必要であると感じた。

〈高学団〉

生活単元学習について、教科の視点を取り入れた単元計画の作成や、より使いやすい授業改善シートの様式について検討した。学部キーワードである「やってみよう」「おもしろい」「できた」を実感できるよう、今年度は事前学習の充実を図った。主に、行事や調理の単元において、実態に合わせてグルーピングを行い、個人のねらいに沿って活動した。評価については、学団で共通理解をしながら次に活かすようにした。

【開かれた授業研究会】生活単元学習 単元名「校外学習」



〈授業研究会より〉

校外学習のまとめでは、マップ作りや感想カード作りに取り組んだ。感想カード作りでは、個人のねらいに応じたグループで取り組んだ。実態に合わせた発問や発表の仕方について工夫し、それぞれのねらいに合った発表をすることができた。事後学習の充実や児童のより主体的な姿を引き出すためには、児童の「主体的な取り組み」について教師間で共有する場面を設定することが必要であると感じた。

2 反省

(1) 成果

〈低学団〉

- ・「自由遊び」では、各遊具に教科の視点を取り入れることで、自由で主体的な遊びのなかで、教科につながる力を意識して指導にあたることができた。
- ・「主体的に活動する姿」のキーワードを確認し、教員間で共通認識をもって授業づくりができた。そのキーワードをもとに個別の目標の設定や振り返りをしたため、児童の主体的な姿を具体的に記述することができた。
- ・授業改善シートの二度目の回覧では、エピソード記録を観点別に色分けしてマーカーすることで、各観点のどのような力が身に付いてきたかを、複数の教師の視点で評価することができた。また、授業改善シートの様式をより使いやすく、分かりやすいものに改善しながら実践を重ねることができた。
- ・児童の教師や友達の様態をして遊んだり、自分なりに遊び方を工夫したりする姿（「やってみよう」）、好きな遊びを見つけて繰り返し遊ぶ姿（「おもしろい」）、遊び方を試して成功し、喜ぶ姿（「できた」）がみられた。

〈高学団〉

- ・単元目標を立てる際に、ねらいたいことを【3観点→教科→個人の目標】と細分化していくことによって、単元でねらいたいことや個人の目標が立てやすくなり、評価がしやすくなった。（個別とのリンクがしやすくなった。）

R1年度

授業名（題材名）生活単元学習「秋の収穫祭」サツマイモ調理	11月21・25・28日（木）3～6校時
ね	【算数】材料を計ったり数えたりすることができる。（知識及び技能）
ら	【生活】調理器具の名前や使い方を知り、安全に調理をすることができる。（知識及び技能）
い	【生活】身近な人々と自分の関わりについて考え、表現することができる。（思考力、判断力、表現力）
	【国語】言葉で表すことやそのよさを感じることができる。（学びに向かう力、人間性等）



R2年度

授業名 生活単元学習「調理をしよう」	7月6日（月）～7月17日（金）
ね	〔知識・技能〕調理の内容や手順が分かり、清潔に気をつけて調理ができる。【生活、国語、算数、家庭】
ら	〔思考・判断・表現〕作るクッキーの個数や、渡す人数や相手が分かる。【算数】
い	〔学びに向かう力・人間性〕調理活動を楽しみにし、友達と協力して調理活動をすることができる。【道徳】

- ・個人のねらいに応じてグルーピングを行ったことで指導の焦点化ができた。各児童の実態に合わせた学習を取り入れたりと設定したりしたことで、少ない支援で主体的に取り組む様子があった。
- ・児童は、事前学習において自分で作成した行程表や手順表を確認する様子が見られ、期待感（「やってみよう」）や充実感（「おもしろい」「できた」）をもつことができた。

(2) 今後に向けて

〈低学団〉

- ・遊びが土台となって他教科にも良い影響を与えているのかどうかを評価し、指導に生かすことが不十分である。個別の指導計画を参考にして個々の他教科の実態を知ったうえで、目標や遊具を考えることで、「遊びの指導」と各教科のつながりをさらに意識していく。
- ・「課題遊び」の参加の自由度や教科の視点をどの程度取り入れるか等、目的や内容を改めて検討する。
- ・「遊びの指導」では、3観点に分けられない児童の姿もあり、観点別に目標を立てることが難しかったため、観点別での目標の立て方を検討する。

〈高学団〉

- ・R1年度は教科の視点に重点を置いて単元目標を立てたことで、評価基準は明確になったが、知識・技能に偏りがちであったり、次の単元とのつながりが難しいという課題があった。そこで、R2年度は3観点から単元目標を立てたところ、単元をつなぐを考えやすくなり、学部キーワードである「やってみよう」「おもしろい」「できた」につながる授業作りができたと考える。教科ベース、各教科等を合わせた指導ベースと両方やってみて、どちらの視点も大切だと感じたことから、今後は更に教科を踏まえた単元作り、授業作りを行う。
- ・評価やエピソードの記録について、できたことについては具体的に(回数や手立てなど)、難しかったことや次に取り組みたいことについても残し、単元と教科のつながりを意識していく。

【小学部としての反省】

〈成果〉・授業改善シートをツールとして、PDCA サイクルを回すことができた。

- ・学部キーワードである『「やってみよう」』『「おもしろい」』『「できた」』と実感できる活動を設定し、主体的に学びに向かう児童の姿を引き出すことができた。

〈今後について〉

- ・低学団、高学団ともに、教科を意識した授業づくりができた。「各教科等を合わせた指導」と教科のつながりをさらに深めていくために、各教科のねらいに迫ることや各教科の力を評価して指導に活かすことに取り組んでいく。